

1 月分留学報告書

私がマカオ大学へ留学してから約 1 か月が経過した。マカオでの生活は想像していたよりも快適だということが分かった。気候は日本と比べて温暖であるし、アジアということもあるので日本の製品をどこでも手に入れることができる。また、バスの価格も 50 円程と安いので移動も簡単である。そのため、マカオでの生活にも徐々に慣れ始めている。

しかし、今後乗り越えなければならない課題がいくつか見つかった。その一つは、言葉の問題である。マカオ大学の授業はすべて英語で行われる。私が留学する前に福井大学で取っていた授業はほとんど日本語で行われていたため、英語で全ての内容を理解するのは難しいと感じている。しかし、先に授業の内容を予習し、予習で分からなかった単語を調べることで以前よりは内容を理解できるようになった。それでもまだ十分に理解できているとは言えないので、より予習や復習に力を入れたい。また、授業中に学生同士のディスカッションを求められることがあるのだが、ディスカッションの時間になると中国語圏の学生がほとんどであるので、中国語で話し出す。私は福井大学で第二言語として中国語を習ってはいたものの、中国人と日常会話ができるレベルには遠い。私が外国人であることを伝えると英語で話してくれるのだが、3人以上のグループだと中国人同士では中国語を用いて、私に対しては英語で伝言するということが多い。そのため、少し疎外感を感じることもある。また、これはディスカッション以外の場所でも同じである。中国語が話せないことによってコミュニケーションの機会を逃してしまうことにつながってしまうと感じているため、英語だけでなく、中国語の勉強にも力を入れていきたい。また、マカオ大学の学生はほぼ英語を母国語としないにも拘らずとても流暢な英語を話していることに感心している。私が中国語を分からないためにイングリッシュプリーズと言うと、すぐにとっても流暢な英語に切り替えて話してくれる。しかし、その英語も理解できていない部分があるのが問題である。中国語ができないなら、英語はできて当然だと思われても仕方ないので、英語は中国語以上に使いこなせるようにしていきたい。

マカオ大学には日本語学科がある関係か日本人の学生が多く、現在 15 人ほど日本人の学生が留学やインターンシップでマカオ大学に在籍している。そのため、日本人同士で集まったりする機会も多い。同じ日本人同士で日本語を用いて話を共有したりすることは安心するし、日本人ならではの悩みなどについても気軽に話すことができるため、良いと思う。しかし、その他にも、現地の学生や他の国から来た留学生とも交流を深めていきたい。寮ではイベントやセミナーが定期的に行われているので、積極的に参加するようにしたい。また、大学の合唱団のオーディションに合格したので、中国語の曲を練習しつつメンバーと積極的に交流を深めていきたい。